

**球磨地域における飼料用米「夢あおば」は 6 月中下旬移植で 10 月上中旬に成熟し多収となる**

「夢あおば」は 5 月中下旬移植で 9 月上旬に成熟期を迎え、6 月中下旬の移植で 10 月上中旬に成熟期を迎える。10 月中に成熟期を迎えるための移植晩限は 6 月 6 半旬である。収量は 5 月移植で 650kg/10a 程度であり、6 月移植で 750kg/10a 以上の多収となる。

農業研究センター球磨農業研究所 (担当者: 藤本 仁寿)

**研究のねらい**

米の需要が多様化する中、県内では飼料用米の生産が拡大し、飼料用米「夢あおば」の作付けが増加している。「夢あおば」は野菜前作の普通期早植え(5月)から普通期(6月)まで各地域の様々な作期で栽培されているが、各作期における生育、収量の関係は明らかでない。そこで、安定多収栽培技術の基礎として、普通期早植え(5月中旬)から普通期遅植え(6月下旬)までの作期移動試験を行い「夢あおば」の作期と収量との関係を明らかにする。

**研究の成果**

1. 「夢あおば」は 5 月中下旬移植で 7 月下旬に出穂し、9 月上旬に成熟期を迎える。6 月中下旬の移植では 8 月中下旬に出穂し、10 月上中旬に成熟期を迎える(図 1)。
2. 出穂期から成熟期までの単純積算温度は 5 月中下旬移植の場合 1,200℃程度であり、6 月中下旬移植の場合 1,300℃程度となる(図 1)。なお、7 月中下旬移植では、登熟期間の気温低下により成熟期に至らない(データ略)。
3. 収量は、6 月移植が高く、750kg/10a 以上となる。5 月移植では籾数が減少し 650kg/10a 程度となる(図 2)。

**普及上の留意点**

1. 2016~2017 年に球磨農業研究所(あさぎり町)の表層多腐植質黒ボク土の水田で実施した成果である。
2. 耕種概要については、稚苗移植、栽植密度 18.5 株/m<sup>2</sup>(1 株 4 本手植え)、施肥は窒素 11.9 (基肥 7.0+出穂 25 日前 2.8+出穂 10 日前 2.1) kg/10 a、リン酸 15.8 kg/10 a、カリ 16.2 kg/10 a、その他の管理は地域の慣行に準じた。
3. 「夢あおば」は「ヒノヒカリ」と比較して発根が早いいため、浸種を 1 日程度短くする必要がある(データ略)。
4. 栽培期間の気温は 2 ヶ年とも概ね高温で推移した(図 1)。

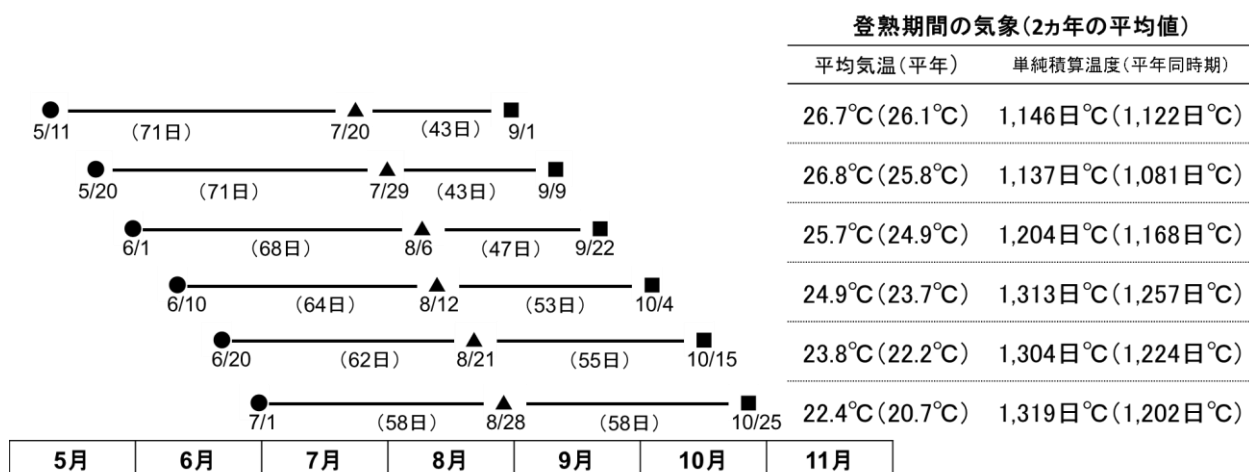


図 1 作期移動試験の結果 (2カ年平均値)

注 1) ● : 移植期、▲ : 出穂期、■ : 成熟期 注 2) 気象はアメダス (あさぎり町上) の観測値

表 1 各作期の収量及び収量構成要素 (2カ年平均値)

移植期	稈長	穂長	穂数	粗粒重	一穂粒数	m <sup>2</sup> 当たり粒数	登熟歩合	千粒重
月.日	(cm)	(cm)	(本/m <sup>2</sup> )	(kg/10a)	(粒)	(千粒/m <sup>2</sup> )	(%)	(g/千粒)
5.11	78.4	22.6	251	863	114	28.9	78.1	25.9
5.20	77.9	22.1	233	882	140	33.1	73.7	25.3
6.01	83.2	22.6	250	951	130	32.9	77.1	25.1
6.10	78.8	22.2	275	959	137	38.2	70.6	24.4
6.20	81.0	21.0	292	1015	119	35.2	72.8	24.0
7.01	80.6	21.2	284	1003	117	33.7	82.5	25.8

注 1) 千粒重は粗玄米を用いた。千粒重、粗玄米重は水分 15%換算値。

注 2) 登熟歩合は塩水による比重選 (1.06)。

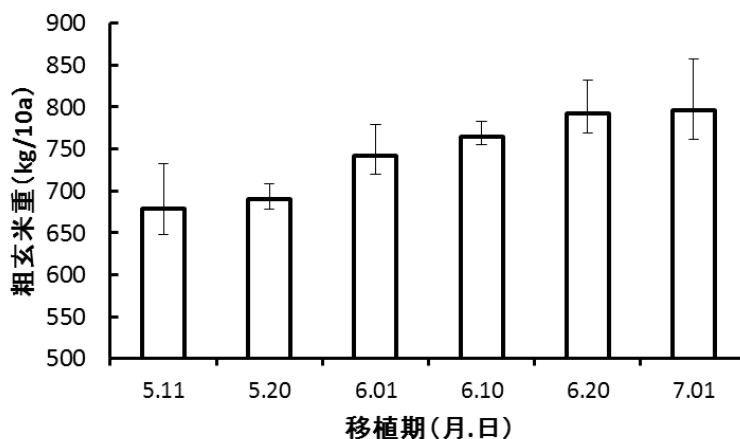


図 2 移植期と収量の関係

注 1) 収量は粗玄米重で 2カ年の平均値、

注 2) バーは標準偏差を示す。